

沼津市青少年教育センター

# たより

平成28年1月号 No. 514

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

## 止まったままの時計

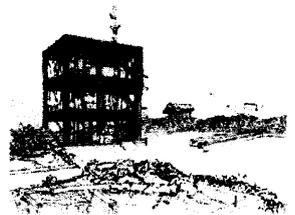
青少年健全育成地域相談員 総括 市川 勝也

昨夏も東北の被災地で、あの日から止まったままの時計に出会いました。

毎年1回のボランティア活動ですが、その時計を見ながらさまざまに感情がゆさぶられます。見て聞いて、肌で感じて、思い悩むことは相変わらず多くありました。「とにかく何かをしたい。とにかく現場を見たい。」そんな気持ちで、被災地の沿岸部に駆けつけたのは1年目のことです。その時目にした光景は「戦争が起きたのか。」でした。しかも、新聞やテレビで知ることと、実際に見ることとは全て違っていました。復興にはほど遠い現実を見て、何もかもがなくなるとはどんなことなのか、恐怖やあせり、怒りまでも実感しました。

5年目となった昨夏、人知では防げない猛威を振るう自然に加え、廃炉までは長い年月を覚悟しなければならず、今もって多くの人たちが避難生活を送っている福島原発事故に、一層悔しい気持ちが増しました。それは、一般の人の通過のみが許可となり、帰還困難や居住制限のある双葉町などの5町を車で走ることができたからです。まず目にしたのは、利用した高速道のサービスエリアのお知らせに、1回の通過で0.37マイクロシーベルト被ばくすると掲示してありました。異常であることを普通のように伝えていることが何か恐ろしく思えました。5町では、交差点ごとに警備員がいて、住宅の入り口に据えられた工事用バリケード群などが、生活をしていた人たちの不在を実感させています。スーパーや飲食店の建物はあっても車の走行音しか聞こえませんでした。きっと夜間は真っ暗闇の世界で街の気配は何もないはずです。

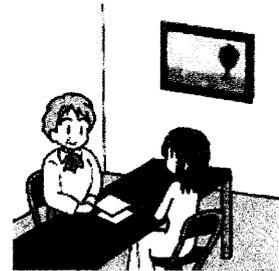
気持ちの整理がつかず、時が止まったままの被災地に今年も冷たい雪が降る時期になりました。凍った時間を解かすのは何でしょうか。「約2万通りの死に、それぞれ身を引き裂かれる思いを感じている人たちがいて、その悲しみに今も耐えています。」その涙かもしれません。最近、この列島での暮らしを根底から問い直す共通体験だったはずとあらためて省みています。「個人は3日で飽き、3ヶ月で冷め、3年で忘れる。」と記憶の消え方に「3」の法則性があると聞いたことがあります。とうに3年は過ぎており、これほどの大震災でも関心や支援の「風化」が懸念されます。一人でも多くの被災地を自らの目で見てほしいと願っています。被災地で会う人たちは諦めてはいません。美しい古里を取り戻し、次代に託すまで頑張っています。被災地で思い、考えることはきっと自らの血となり、肉となるはずです。



# 青少年教育センターの面接相談から

沼津市青少年教育センター指導主事 高島信子

青少年教育センターの面接相談を担当して、もうすぐ1年になるとうとしております。当センターでは、学校生活や対人関係、進路に向けての不安などから不登校になった児童生徒や発達、子育てに心配を抱えている保護者を対象に、予約をさせていただいての面接相談を実施しています。



現在、5人の担当者が児童生徒や保護者からの相談に応じています。

相談内容の多くは、不登校に関するものです。この場合はまず、行動力の状態の把握に努め、行動力が低下していると判断した時は、その要因や原因を探り、行動力の回復を図ります。したがって、不登校の児童生徒には、行動力を回復し、自立を促すことが目標となっていると言えます。

相談内容は、児童生徒本人だけでは解決しないことが多く、保護者とも行います。保護者には、家族の関わり方や生活のリズムを整えるといった、本人を取り巻く環境を整備していくことを具体的にお願いしています。

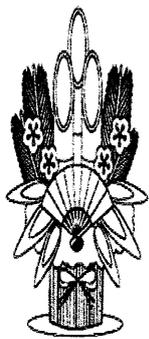
本人には、リラックスできて安心して話せる場になるよう、さまざまな工夫をしています。例えば、体育室でのスポーツ、手芸、パズル、学習などですが、本人の意向を尊重しながら行っています。一見遊んでいるようにもみえる活動を通して、青少年教育センターが気楽に繰り返し来所できる場所となり、担当者が信頼され、相談者が本音で話せる場となるよう努めています。

今年度、特に力を入れて取り組んだ活動に「はばたき」があります。これは、普段面接相談に来ている児童生徒同士が、体験活動等をするにより、集団適応力を付けていこうとするものです。

北消防署見学、三島源兵衛川探検、静浦漁港での釣り、タコ焼きパーティー、沼津市少年自然の家でのミニ門松づくり等を企画し、活動しました。普段は他の子どもたちとのかかわりを持つことができない児童生徒ですが、小集団での活動に抵抗なく参加することができるようになったり、かかわり合いを楽しむことができるようになったりしました。

タコ焼きパーティーに参加した女子中学生は、他の女子生徒たちの会話が弾むようにと自ら明るく接することを心掛けたそうです。また、ミニ門松づくりでは親子の参加者もあり、なれない縄の

結び方に親子で悪戦苦闘しながら、素敵な作品に仕上げている様子が見られました。この「はばたき」は、私たち担当者にとっても、集団に対する抵抗感や不安感を抱いている児童生徒に対し、今後どのような支援をしていけばよいかを知る機会となっています。1月には、新春大ゲーム大会と銘打って「すごろく」や「かるた」などを楽しむ予定です。このような活動を継続していくことで、集団適応力が付いていくだけでなく、学校復帰もしくは相談指導学級への通級など、自立への一歩につなげていきたいと考えています。



子どもたちは、誰もが自分らしく生活したいと思っています。笑顔を絶やさずに自分らしく、自らの意思と足で人生を歩んでいけるよう、2ヶ月後の新年度に向けて微力ながら応援していきたいと思っています。

# 面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など  
 青少年に関する面接相談。  
 ◎相談および申し込み受付時間：  
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎相談申し込み：Tel 951-3440

## 平成27年10月・11月・12月の状況

10・11・12月には新たに申込みがあった18件（10月6件、11月7件、12月5件）を含め、50件（延べ相談回数407回）の相談に応じました。

### 1 相談内容別新規相談件数

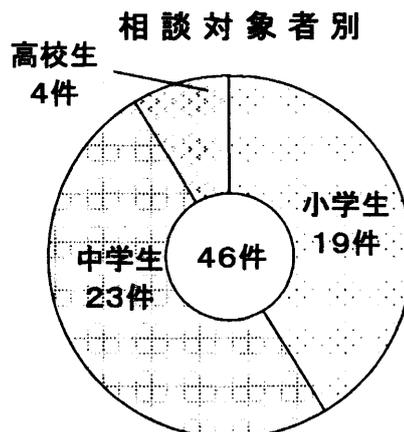
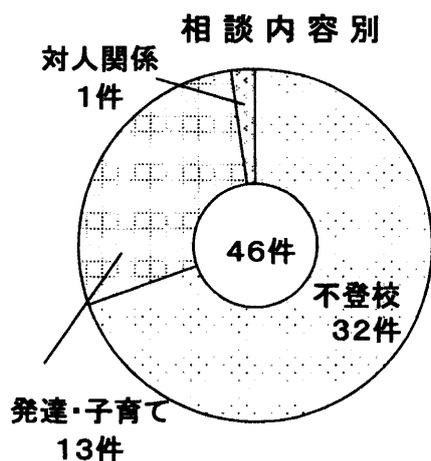
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
10月	0	3	3	0	0	0	6
11月	0	4	2	0	1	0	7
12月	0	4	1	0	0	0	5

### 2 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
10月	0	3	3	0	0	0	6
11月	0	3	3	1	0	0	7
12月	0	2	3	0	0	0	5

### 3 今年度の新規相談受付状況

受付件数 46件 （前年同期 48件）



#### 4 10・11・12月の相談件数（新規及び継続）

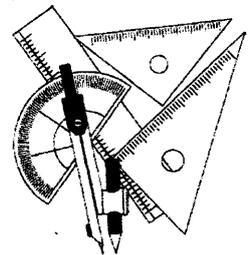
対象	性別	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		6	2				8
	女		3	2		1		6
中学生	男		9	2				11
	女		19	2				21
高校生	男		1					1
	女		1					1
少年	男					1		1
	女							0
一般成人	男					1		1
	女							0
計	男	0	16	4	0	2	0	22
	女	0	23	4	0	1	0	28
男女合計		0	39	8	0	3	0	50

#### 5 10・11・12月の相談回数（50件の相談延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
10・11・12月	男	171	2	0	173
	女	231	0	3	234
	計	402	2	3	407

#### 6 相談指導学級の様子

10月から12月にかけては体験活動が充実した期間でした。職業体験として、継続的な取り組みで成果を上げた時の感動を味わう農耕体験（サツマイモ・落花生・トマト等）やミカンの収穫体験等、学習体験として、国指定史跡（長浜史跡）・世界文化遺産（白糸の滝）見学等、集団生活での達成感を味わうための調理実習等を行いました。



さらには社会体験として、困難を乗り越えることを通して自己肯定感を高めるためのオータムキャンプ（1泊2日）を行いました。体験活動によっては個々の役割があり、遂行することで集団の一員としての自覚だけでなく、集団への帰属意識も高まってきました。当学級の最終目標は学校への復帰、社会的自立にあります。前述した様々な体験活動を年間30数回行うことは、精神面のケアと学級目標達成への大きな原動力となっていると確信しています。

また、通級することで、学習内容の定着を少しでも図ったり、学校復帰時の学習習慣を身に付けていたりしています。日々の落ち着いた取り組みに加え、前向きな姿勢も尊重していきたいと思えます。

現在、部分復帰している生徒、学校復帰を考えている児童生徒がいますが、新たに通級を始めた生徒もいます。子どもたちの個人的な課題解決に向けて、そして心理的回復・自信回復を願って、継続的な支援をこれからも行っていきます。

# 電話相談



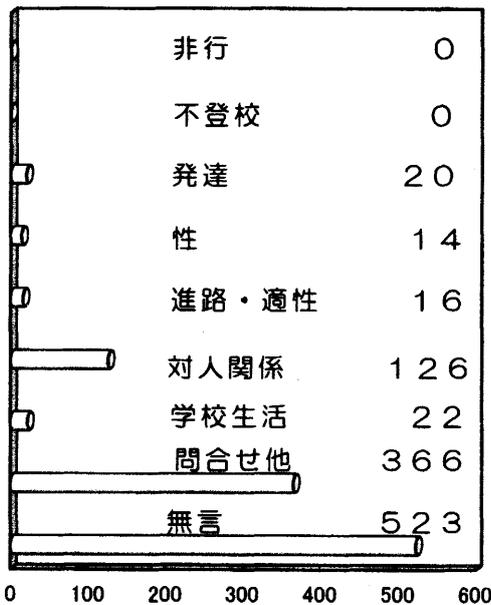
◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。  
 ◎相談時間：午前10時～午後7時  
 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

## 平成27年10・11・12月の状況

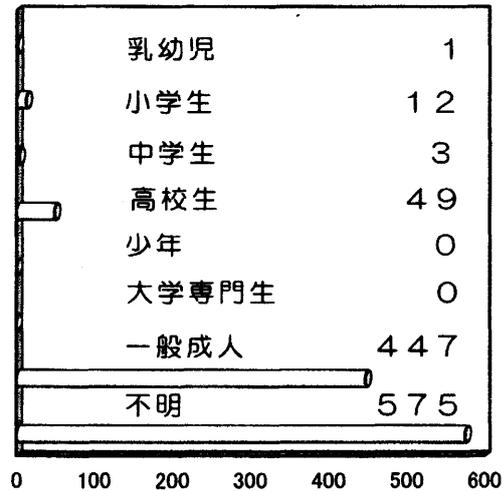
10月には312件、11月には426件、12月には349件の相談が寄せられました。  
 （前年10月：241件，前年11月：222件，前年12月：220件）

### 1 10・11・12月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



### 2 今年度の電話相談受信件数状況(平成27年度)

総件数 2,620件（前年同期 1,647件）

#### (1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	2	12	45	42	21	384	55	833	1,226

#### (2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	2	30	15	138	2	3	1,085	1,345



# 地域一丸

片浜地区少年補導委員 望月賢一郎

我々の時代と現在では、あまりにも青少年を取巻く環境が変化していることは言うまでもありません。自分たちが小学生の頃は『めんこ』や『こま』で遊んだものです。現在は家に帰って友達と『オンラインゲーム』で遊んでいます。その背景には交通量の多さがあると思われれます。親としてみれば、子供が公園に行き遊ぼうとしても、交通事故に会わないか心配でたまりません。家でおとなしく『ゲーム』でもしてほしかったほうが安心というわけです。先日小学生が夕方暗くなってから、わざわざ交通量の多い道路を歩いているのを見かけました。その時「何故！危ない！」と思い、後日、保護者に「何故この道を歩かせるのか？」と伺いました。片浜地区には、東西に道路が数本あります。その中には住宅街を通過している昔の農道の様な道路があり、そこは車も地元の方しか走りません。交通量も非常に少なく、自分たちが子供の頃からある道路です。『何故！』の答えを聞き愕然としました。『チカンの被害があったから！』でした。交通量の多い危険な道の方が、チカンの出る暗い道より安全と言う事です。苦渋の決断である事は間違いありません。片浜地区では、2年前のあの痛ましい交通死亡事故以来、『地域一丸』となって、二度とあの様な事故がおきてはならないと、小学生の登下校時、地域の方々が道路の各所に立って見守りを続けています。

我々補導部も地域の補導活動の一環として、暗くなってから下校してくる中学生や自転車で帰宅してくる高校生などに、あたたかい気持ちを持って、これからも『見守り・声かけ』を続けて行きたいと思えます。



## 1 少年補導委員の延べ参加人数（10月～12月）

	市職員	教員	女性 補導委員	母親 補導委員	地区代表 補導委員	警察	地区 補導委員	総数
10月	12	15	7	6	16	1	320	377
11月	7	8	8	3	10	0	277	313
12月	7	11	8	4	4	0	124	158

## 2 補導回数・補導状況（10月～12月）

	補導回数				声かけ 注意・指導	事後指導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
10月	3	13	39	55	106	0	0
11月	3	7	38	48	79	0	0
12月	2	7	11	20	79	0	0

## 3 補導活動（平成27年4月から12月までの累計）

補導回数	延べ 参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事後指導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
381	2996	920	0	0

4 平成27年10月・11月・12月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

12月の県内一斉冬季少年補導へのご協力ありがとうございました。この時期のゲームセンター入場者数は学職を問わず、昨年度より増加してしまいました。高校生の自転車走行違反については、極端に減少し、学校での指導と補導活動の成果であると思っています。冷たい日の補導がしばらく続きますが、体調と相談しながら無理のない活動をしてほしいと願っています。

学 職 別 区 分		性別	小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	累四月からの計	
行 為 種 別	飲 酒	男									
		女									
	喫 煙	男			1				1	1	
		女								1	
	夜 間 は い か い	男			4			4	4	80	
		女			4			4	4	71	
	不 良 交 友	男									
		女									
	怠 学 ・ 怠 業	男									
		女									
	ゲームセンター入場	男		4	27	58				89	245
		女		2	10	19				31	111
	パチンコ店入場	男									
		女									
	カラオケ店入場	男									
		女									
	自転車の暴走行為	男		1						1	5
		女									
自転車の二人乗り	男									2	
	女									3	
自転車の無灯火	男			2	3				5	28	
	女				1				1	4	
危険な遊び	男									15	
	女		2						2	12	
そ の 他	男		11	4	44	3			62	156	
	女		6	9	48	1			64	107	
計	男		16	33	110	3			162	532	
	女		10	19	72	1			102	309	
男 女 合 計			26	52	182	4			264	841	

事後	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	0
		女							0	0
指導	他機関へ連絡	男							0	0
		女							0	0
男 女 合 計			0	0	0	0	0	0	0	0

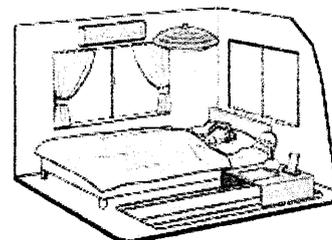
＝ 全力で眠る ＝

人間が本来有している「行動性」は、太陽の動きに連動した「活動力」に沿っています。基本的には「太陽が昇ったら起きだし、陽が沈んだら休む」という行動パターンで生活することが、最も能力を発揮し、健康上も適しているといえます。つまり、明るい間は活動し、暗くなったら休息を取るように、人間の体はプログラミングされているわけです。

しかし、それに近い「生活リズム」で過ごすことは、現代社会においては困難です。ただ、「安定した眠り」を確保することで、持てる能力を最大限に、また、継続的に引き出すことが可能となります。

「五官」が刺激を受けず、脳を休ませることで、「安眠できる環境」が整えられます。「神経に障る環境要素」は、取り除かなければなりません。

環境要素の中では「騒音」や「明るさ」は安眠を妨げる大きな要因と言えます。「騒音」については、自宅の立地条件等もあり、簡単に解決できるものではありませんが、その他の要素については、自分自身が気を付ければ解決できたり、家族の協力で解消できたりします。「騒音」についても、TVの音量や家族間の会話については家族の協力でいかようにも解決できるものも含まれています。「明るさ」については、カーテン等を工夫することで解消できます。「真っ暗」である必要はないようです。「真っ暗」になることで、不安を募らせてしまい、返って、眠れない人もいるからです。照明器具は、本人が安心できる明るさに調整すれば済みます。このように、自ら「不安要素」を取り除くことができるものもあります。さらに「室温」も、大切な要素の一つです。寒すぎても、暑すぎても休まりません。ただ、「室温」については、冷暖房器具や寝具を考えることで、ある程度は解決することができます。いろいろ試すことで、安眠できる環境づくりをしてみてください。



センターの活動予定 (2月の主な活動予定)

日 程	活動(行事)予定	日 程	活動(行事)予定
【相談・補導活動】		【相談指導学級】	
2月12日(金)	第4回地域相談員研修会	2月4日(木)	学習体験
2月26日(金)	第5回補導委員会代表者会	2月18日(木)	創作活動
		2月25日(木)	学習体験

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成  
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言 (昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。